

日本光学会平成 11 年度第 3 回常任幹事会議事録

日 時：平成 12 (2000) 年 3 月 10 日 (金)

13:30~17:30

場 所：機械振興会館地下 3 階 2 号室

出席者：山口幹事長，以下 20 名 (応物事務局長を含む)

議 事：

1. 前回幹事会議事録に関する質問事項

2-3. 講演会関連報告 (5) 冬期講習会進捗報告で，講師の氏名を三露常雄から三露常男に誤字訂正。その他については，承認された。

2. 報告事項

2-1. 編集委員会報告

(1) 「光学」編集委員会報告

- 平成 11 年度の収支会計は予算内であった。編集，発行および原著論文の投稿は順調。
- 研究速報と研究論文の区別を明確にすることと，技術報告の査読方法と基準について検討を行っている。技術報告の査読基準として新規性については強く問わず，有用性を考慮する方向で検討していく。
- 2002 年 4 月号に，日本光学会 50 周年記念の特集を組む予定。特集は編集委員会とは別に WG を設置して企画編集を進める。WG は，リーダーに筑波大学の伊藤雅英氏，「光学」編集委員長，「光学」編集副委員長，ほか数名のメンバーで構成する。編集メンバーの選出は伊藤氏に一任する。
- 以上の提案がなされ，承認された

(2) 「OR」編集委員会報告

- 2000 年に入ってから発行は順調にスタートした。2000 年の投稿論文数は月平均 8 件で，隔月発行では妥当。毎月発行に向けては，10 件を目標にする。海外からの投稿は，2 か月間で 6 件あり，増加傾向である。5 年間の総括として，1995 年から 1999 年までのデータが紹介された。
- 幹事の交代に伴い，「OR」の publication board に記載する幹事名を変更する必要がある。吉川，栗木，石渡各幹事から佐藤 (裕)，埜田，中野各幹事に変更する。

2-2. 講演会関連報告

(1) 冬期講習会結果報告

- 参加人数は 90 名 (有料参加者) で，そのうち 37 名が学生であった。予想を上回る参加者で，盛会になった。収支決算は，広告収入は減少したが，参加費収入が増加し

たことから黒字となった。支出では，ちらしおよびポスターの広報活動費用をもう少し多くしてもよかった。

- 実行委員会は，第 1 回は会合を開いたが，その後はメールによるやりとりで進めた。実行委員会はメールを主体にした進め方で十分に機能した。
 - アンケート調査を行った。今回の冬期講習会をメールで知ったという回答が多く，また，講習会の進行方法については，賛否両方の多様な意見がでた。
 - 今回は，参加者が予想以上に多く，会場が狭くなった。会場は，来年度までは東大生研 (六本木) が使えるが，それ以降は会場費と人件費の両面で経費増が予想される。
- ##### (2) 第 25 回光学シンポジウム進捗報告
- 予稿集の一部をカラー印刷にすることを検討したが，費用が大幅に上がることから，従来通り白黒印刷した。
 - 今回で会場が東大生研 (六本木) を使う最後になるので，次回以降の会場について調査を行っている。
 - 招待講演は 5 件である。講演総数は 31 件で過去の最多件数と並んだ。講演募集の案内配布や日本光学会 HP 掲載を早めた効果が出たと考えている。
 - 3 月 15 日に実行委員会を開催し，プログラム編成等を行う予定である。
 - 今回は，光学素子の微細加工に関するテーマを増やした。また，特徴として，光設計の分野では自由曲面に関する発表が 3 件あり，計測の分野で色の測定に関する発表等が目立つ。
 - 講演は，オーラルだけで対応できない場合は，ポスターを導入することを考えている。その場合は，ショートプレゼンテーションを実施する予定。参加費については，例年並みを考えている。

(3) 第 34 回サマーセミナー進捗報告

- 2 月 29 日に第 2 回実行委員会を開催し，テーマ案と講師候補を決定した。今回のテーマ名は，「世の中を変える光技術」とした。
- 講演は，基調講演 2 件，技術講演 5 件を予定している。講演者が決定した時点で具体的なテーマ名を掲載する。イブニングセッションを今回も開催し，その中で 1 講演「ホログラフィーの面白い実験」を予定している。参加者数を昨年より増を見込んで，参加費と講師謝礼のバランスを考えた 3 つの予算案が提示された。各予算案について意見が交された。講師謝礼については再度検討することになった。

- ・参加費は3万円が妥当な線と考えられ、検討を進める。参加費を低く設定するためにも、参加者を増やす努力をしていく。広報活動は早めに開始する。
- ・光学部品を扱う業者の展示や広告による収入を得ることも検討する。

(4) Optics Japan 2000 進捗報告

- ・実行委員とプログラム委員の委嘱を完了し、2回の実行委員会を開催した。
- ・OJ 2000 のスケジュールを決定した。今回もナイトセッションを開催する予定である。ポスター案 (OJ '99 の内容を一部転載した形で) が提示され、内容等について意見が交された。
- ・講演の申し込み題目と予稿集の題目を一致させることを徹底する。
- ・オーラル講演は、OJ '99 ではシンポジウム主体で行われたが、今回は広い範囲で行う予定。ポスター講演についても、OJ '99 では同じ所属が集中していたので、今回は改善する。一般テーマ (研究G テーマ以外) のシンポジウムも考えている。
- ・新たな試みとして、初めて参加した人やパーティーなどで話す機会の少ない人を中心に、有名研究者 (招待講演者など) との昼食会を開くことを考えている。OSA などで行われている方式で、テーブルごとに有名研究者と気軽な会話ができるようにして昼食をとれるようにする。
- ・他学会との連携を考えていく。シンガポール、韓国、台湾等の近隣諸外国からの招待講演を考えてみてはとの意見も出た。意見等については3月20日までにメールで寄せて欲しい。
- ・講演募集のポスターには、参加費を掲載する。

2-3. その他の報告事項

(1) 名簿作成進捗報告

最終校正を終了し、印刷中 (2350部) である。3月20日発送予定。発送先は名簿に掲載されている住所とし、2100部を送付した。広告を掲載し、出費の圧縮を行った。名簿の電子データの取り扱いについては、小野寺幹事宛に意見を寄せて欲しい。

(2) 研究グループの活動報告/会計報告

- ・研究グループ活動報告
各研究グループから提出された平成11年度の活動報告と平成12年度事業計画を資料に示す。
- ・研究グループ会計報告
生体医用光学は新設で、平成11年度は報告すべき項目がなかったので、収支決算報告がゼロになっている。

(3) その他

- ・会員動静
- ・協賛
計測自動制御学会関西支部主催の講習会「システム制御のための組込みシステム技術」に協賛する。

3. 審議事項

3-1. 総会審議資料

(1) 平成11年度事業報告/平成12年度事業計画 (案)

今回配布の資料は、1月の幹事会で配布したものの訂正版である。第26回冬期講習会の参加者数90名、奨励賞審査の担当に大坪幹事、サマーセミナーのテーマ「世の中を変える光技術」を追記。以上の訂正を加えて承認。

(2) 日本光学会平成12年度スケジュール

- ・幹事会の日程案が提示され、承認された。幹事会は、基本的に第2金曜日の1:30からとする。5月と3月が例外になる。
- ・サマーセミナーのテーマ「世の中を変える光技術」を追加。
- ・カラーフォーラム2000は、日本光学会が担当学会である。実行委員長を埼玉大学の豊岡了氏に依頼し、承諾された。

(3) 平成11年度収支決算

- ・事業収入の国際会議 (ICOSN '99) 開催による収入は前年度繰越金に含まれている。
- ・「光学」の編集業務を学会事務センターに委託している。その伝票処理が遅れているために、当期収支差額が予算額と一致していないが、学会事務センターの予想請求額を含めると、黒字額が予算通りの決算になる。同じく伝票処理の遅れにより、OJ '99 の決算が組み込まれていない。
- ・HP作成費が1999年1月に小宮山印刷から請求されている。その要目について調査する。
- ・予算として、「光学」のカラーページ化と光学資料室の準備費用を計上した。
- ・応物への決算報告書の記載ミス (予算と決算の数字が一致していない) について、応物事務局長からお詫びのコメントがあった。事務局で、光学会から提出された資料を応物の決算資料に転記する際の、転記ミスによるものである。
- ・「OR」の目次を「応物」に掲載することを要請する。

3-2. 光学奨励賞委員について

委員長は「光学」と「OR」の編集委員長が交代で務め、平成12年度は大坪「光学」編集委員長が務める。副委員長は一岡「OR」編集委員長が務める。選考委員とし

て、資料に示す構成が提案され、承認された。資料に示されている委員は「光学」に掲載する。

3-3. 光学論文賞規定変更

- ・前回1月の幹事会での提案を再度検討した変更案が示された。第3条を「表彰の対象は表彰時の前年9月末日までの1年間に発行された学術刊行物に発表された光学に関する原著論文の第1著者とする」に変更する。第4条の句点位置を修正し「～応用物理学会会員で、原則として表彰の年に～」とする。
- ・審査委員の氏名の公表時期等については、次年度に継続審議する。

3-4. 国際会議の開催について

- ・3月7日に開催された国際会議検討委員会で第2回のOSJ-SPIE Joint Conference をICOSN 2001として、6月6日(水)～8日(金)に前回と同じパシフィコ横浜で開催することを決定した。光学測定機工業会からは前回と同じ協力を仰ぐことができる。
- ・新企画として、翌週にサテライト会議を関西で開催する。責任者は次の通りである。大会委員長：岩田耕一(大阪府大)、実行委員長：高橋信明(防衛大)、サテライト委員長：伊東一良(阪大)。以上の提案が承認された。

3-5. 引き継ぎ事項について

時間切れのため、資料の配布だけ行った。次回に説明を延期。

次回幹事会は、5月15日(月) 13:30～ 応物会議室

日本光学会第160回幹事会

2000年5月15日(月)に九段会館において開催されました。「光学」「OR」の編集委員会報告、ICOSN 2001、光学シンポジウム、サマーセミナー、Optics Japan 2000、冬季講習会等の講演会関連の報告および審議、光学論文賞募集要項および審査委員に関する報告、光学会資料室に関する報告、北陸信越講演会開設に関する審議、幹事会日程変更の報告等がなされました。なお、詳しい幹事会議事録は次号に掲載予定です。

日本光学会会員名簿での記載間違いについて

このたび発行されました日本光学会会員名簿1999年度版において、データ処理の手違いから、光設計研究グループ所属の会員について、所属研究グループの略号が「光設」ではなく、「位相」となってしまいました。

光設計研究グループ会員をはじめ関係者の皆さまにはご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。

(名簿作成小委員会)

平成12年度光学論文賞選考委員会

平成12年度光学論文賞の選考委員は下記の方々に決定しました。

委員長	岩田 耕一	(大阪府立大)
委員	阿山みよし	(宇都宮大)
	小野 雄三	(立命館大)
	波多腰玄一	(東芝)
	羽根 一博	(東北大)
	山本 公明	(オリンパス)

平成12年度光学論文賞受賞候補者の募集

応用物理学会では光学の分野における優秀論文の著者に対し、下記のごとく光学論文賞を贈っています。本論文賞は41年の歴史をもち、光学奨励賞とともに日本光学会の活動度を示す重要な指標の役目を果たしております。光学論文賞規定については本号466頁をご覧ください。平成7年度からの光学論文賞規定の改訂により、光学論文賞は公募に応じた自薦、他薦の候補者から選考されます。奮ってご推薦ください。

受賞対象者：原則として表彰の年に満40歳未満の日本光学会会員あるいは応用物理学会会員であり、本年9月末日までの1年間に発行された学術刊行物に発表された光学に関する原著論文の第1著者。詳細は光学論文賞規定をご覧ください。

提出書類：候補者の氏名、会員番号、生年月日、満年齢(公募締切日における)、勤務先、勤務先所在地、自宅住所、連絡先、推薦理由(自薦他薦を問わず、論文の特徴、すぐれた点等を400字程度でわかりやすく記す)、候補論文別刷6部(コピー可、関連論文があれば2編以内でそれらの別刷またはコピーを1編につき6部ずつ添付)、他薦の場合は推薦者の氏名、勤務先、勤務先所在地、連絡先。

書類提出期限：平成12年10月31日(火)必着

提出先：日本光学会庶務幹事 大谷幸利

〒184-8588 東京都小金井市中町 2-24-16

東京農工大学工学部機械システム工学科

電話 042-388-7103 Fax 042-385-7204

E-mail: otani@cc.tuat.ac.jp

結果は「光学」第30巻第3号において発表されます。

平成12年度第1回「光学」編集委員会

2000年5月12日(金)、(財)日本学会事務センター会議室において開催されました。第29巻第12号～第30巻第1号企画、30巻2号～5号構想案について審議が行われ

ました。また、日本光学会 50 周年記念号企画について審議がなされました。そのほか、査読票改訂が議決され、また論文投稿・審査状況、各号進捗状況、会計等について報告がなされました。

平成 12 年度光科学及び光技術調査委員

平成 12 年度光科学及び光技術調査委員は次の方々に決定しました。

- | | | | |
|---------|----------|--------|-----------|
| 委員長 | 尾松孝茂 | (千葉大工) | |
| 委員長(関西) | 中川 清 | (神戸大工) | |
| 委員 | | | |
| 井出昌史 | (シチズン時計) | 原田建二 | (筑波大) |
| 今宿 互 | (NTT) | 小田 功 | (木更津工専) |
| 小尾高史 | (東工大) | 笠松直史 | (NEC) |
| 上窪淳二 | (旭光学) | 河野克典 | (富士ゼロックス) |
| 菊池啓記 | (ソニー) | 櫻田英之 | (上智大) |
| 近藤洋行 | (ニコン) | 清水賀代 | (早稲田大) |
| 関根義之 | (キヤノン) | 高田英行 | (電総研) |
| 辻田和宏 | (富士フィルム) | 戸丸辰也 | (日立) |
| 林 真市 | (オリンパス) | 平井亜紀子 | (計量研) |
| 平尾明子 | (東芝) | 廣野泰亮 | (興和) |
| 古川祐光 | (機械技研) | 上田 健 | (リコー) |
| 森田 清 | (HOYA) | 塚田由紀 | (交通安全公害研) |

- | | | | |
|--------|--------|-------|---------|
| 委員(関西) | | | |
| 井上康志 | (大阪大) | 大利祐一郎 | (ミノルタ) |
| 金馬慶明 | (松下電器) | 佐藤 晃 | (島津製作所) |
| 篠田博之 | (立命館大) | 高原淳一 | (大阪大) |
| 田和圭子 | (大工技研) | 野村孝徳 | (和歌山大) |
| 早崎芳夫 | (徳島大) | 宮崎大介 | (大市大) |
| 柳生栄治 | (三菱電機) | 吉田慎也 | (シャープ) |

日本光学会第 34 回サマーセミナー

日本光学会主催の第 34 回サマーセミナーを 2000 年 8 月 24 日(木)～26 日(土)に上智大学軽井沢セミナーハウスにて開催します。今回は「世の中を変える光技術」をテーマに、来世紀に向けて飛躍的発展が期待される光学技術をピックアップしています。またイブニングセッションでは、光学実験とデモを通して、参加者の皆さんが互いに議論できる時間を設けています。皆様の奮っての参加をお願いします。詳細は本号の綴じ込み案内をご参照ください。

第 2 回大気・環境・宇宙リモートセンシングに関する SPIE 国際アジア太平洋シンポジウム

期 日：2000 年 10 月 9 日(月)～12 日(木)

場 所：仙台国際センター
主 催：米国光学技術学会 (Society of Photonics Industry and Engineering)
共 催：宇宙開発事業団、東北工業大学
予定参加者数：300 名
使用言語：英語
問合せ先：第 2 回大気・環境・宇宙リモートセンシングに関する SPIE 国際アジア太平洋シンポジウム事務局 〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1 東北工業大学通信工学科浅井研究室内
電話 022-229-1151 内線 362 Fax 022-228-2452
浅井和弘 E-mail: asai@titan.tohtech.ac.jp
三浦和香 E-mail: waka@titan.tohtech.ac.jp

日本写真学会サマーセミナー 2000

テーマ：21 世紀の写真技術に向けて—デジタル時代の写真はどうか？—
主 催：(社)日本写真学会
協 賛：映像情報メディア学会、日本光学会
会 期：2000 年 8 月 31 日(木)～9 月 1 日(金) 1泊2日
場 所：湘南国際村センター国際会議場(神奈川県葉山町上山口 1560-39) 電話 0468-55-1810
<http://www.shonan-village.co.jp/~svc/>

- 暫定プログラム：
- 8 月 31 日(木)
- 13:00～13:10 開会挨拶
 - 13:10～15:50 撮像センサー
 - ・ CCD の現状と将来 鈴木智行(ソニー)
 - ・ CMOS イメージセンサ技術 松長誠之(松下電子工業)
 - ・ 銀塩感材の現状と将来 谷 忠昭(富士フィルム)
 - 16:00～18:00 パネルディスカッション 「デジタル時代の写真はどうか？」—デジタル写真と銀塩写真の画質/新しい写真文化—
 - 18:30～20:30 フリーディスカッション&懇親会
- 9 月 1 日(金)
- 9:00～11:40 デジタルカメラ
 - ・ 極小画素 CCD 搭載デジタルカメラの問題点 文月 涼(水中デジタル映像研究所)
 - ・ もう一つの画質論～デジタルカメラのほけ特性など 吉田英明(オリンパス)
 - ・ デジタルカメラの露光制御

川村晃一郎 (ニコン)

13:00~15:40 写真サービスとプリント

- ・インクジェット記録の耐候性改善へのアプローチ

渡辺和昭 (セイコーエプソン)

- ・ラボから見たデジタル写真と銀塩写真

村越 誠 (フジカラーサービス)

- ・写真の新しいビジネス

青木康雄 (デジプリ)

15:40~15:50 閉会挨拶

参加費:

- 1) 聴講費: 日本写真学会会員・協賛学会員 25,000円, 非会員 30,000円, 学生 (含優待会員 65歳以上) 15,000円
- 2) 宿泊費: 一律 15,000円 (懇親会費用, 朝食および昼食代を含む)

定員: 先着 80名

申込締切: 平成 12年 7月 31日

参加申込み先・問合せ先:

東京工芸大学内 (社) 日本写真学会サマーセミナー係

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5

電話 03-3373-0724 Fax 03-3299-5887

E-mail: spstj@pht.t-kougei.ac.jp

URL: <http://www.ao.u-tokai.ac.jp/photo/p.htm>

デジタル画像基礎技術講座

期 日: 2000年 9月 11日 (月)~13日 (水)

会 場: 機械振興会館地下 3階研修 2号室. ただし, 12日 (火) は同館地下 3階研修 1号室 (東京都港区芝公園 3-5-8)

主 催: (社)日本オプトメカトロニクス協会, デジタル・イメージング技術部会

問合せ先: (社)日本オプトメカトロニクス協会
東京都港区芝公園 3-5-22 機械振興会館別館
電話 03-3435-9321

定員: 100名

日本光学会 news の掲載申込み先:

〒174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9 旭光学工業(株)光学研究部第1研究室 米山修二

電話 03-3960-4664 Fax 03-5392-2013 E-mail: s.yoneyama@aoc.pentax.co.jp

なお, 掲載申込みは原則として発行日 (10日) から 2か月前の 15日まで, 開催日が 1~10日の場合は, 開催日の 3か月前の 15日までをお願いします。

日本光学会平成12年度幹事 (*常任幹事)

幹事長:	岩田 耕一* (大阪府立大)	
副幹事長:	松本 弘一* (計量研)	
庶務幹事:	佐藤 裕志* (コニカ)	大谷 幸利* (農工大)
	埜田 友也* (ニコン)	門野 博史* (埼玉大)
	石渡 裕* (オリンパス)	小野寺理文* (能開大)
	中野 隆志* (融合研)	米山 修二* (旭光学)
	伊藤 治彦* (東工大)	
『光学』編集幹事:	大坪 順次* (静岡大)	堀 裕和 (山梨大)
	尾松 孝茂 (千葉大)	中川 清 (神戸大)
『OPTICAL REVIEW』編集・出版幹事:	一岡 芳樹* (大阪大)	山口 一郎 (理研)
国際協力幹事:	芳野 俊彦 (群馬大)	高橋 信明 (防衛大)
将来問題担当幹事:	中楯 末三 (東京工芸大)	
前幹事長:	山口 一郎 (理研)	
企画・事業担当幹事:	亀丸 俊一 (北見工大)	坂田 肇 (キヤノン)
	山田 秀則 (富士ゼロックス)	本宮 佳典 (東芝)
	高梨 健一 (リコー)	天野 主税 (NTT)
	橋本 信幸 (シチズン時計)	岡井 誠 (日立)
	森 峰生 (通信・放送機構)	羽根 一博 (東北大)
	大高 真人 (福井大)	佐々木修己 (新潟大)
	藤原 巧 (豊田工大)	塩野 照弘 (松下電器)
	財部 健一 (岡山理科大)	森 邦彦 (鹿児島大)